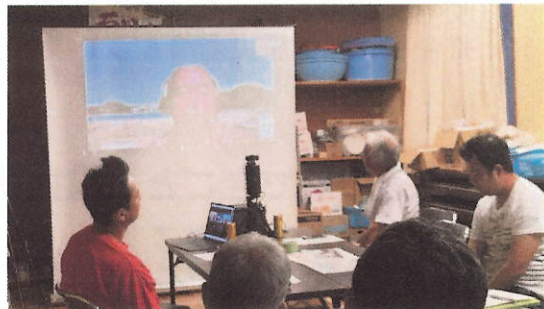


開催報告 第5回のろし復旧・復興会議

8/10の第5回NRMは、オンラインで東北のゲスト2名と繋いで、東日本大震災からの復興についてお話を伺いました。成功も失敗も、赤裸々に語っていただきました。ここには書ききれないほど豊富で貴重な情報が詰まっていますので是非右QRコードからアーカイブをご覧ください。



テーマ① 仮設入居後の町づくり | ゲスト: 塚本卓さん (宮城県気仙沼市)

○震災時は美術館職員、東日本大震災後、仮設住宅のコミュニティ再建やまちづくり活動の支援を行う。一般社団法人気仙沼まちづくりセンター代表理事。

○気仙沼で最初に仮設住宅ができたのは5月、市内93箇所全て整備できたのは12月末。抽選で入居者を決めたので、同じ地域の方同士で同じ団地に入ることができずコミュニティ維持が困難だった。自力再建が難しい方は公営住宅に希望を出し、希望数だけ公営住宅が建てられた。全員が新たな住まいへ移り、仮設住宅撤去となったのは10年後。

○色んなものを失って、生活再建も心のケアも十分にでない方に対して「もっといい町にしよう」が先行しすぎると、孤立感・孤独感を高める可能性がある。まず生活再建の道筋を示してからその先を考えるとというふうにしなないと、思いが噛み合わなくなる危険性ある。

○まちづくりは、地域で生活する人のための基盤整備と、外向きの賑いづくり（観光等）が両輪としてきちんと回転しながら進む必要があるが、例えば気仙沼だと、賑いづくりの方に力が入って、住民に対する目線が弱くなり、不平不満が出たり、スムーズに進まないことがあった。

○狼煙町の場合、「町づくり」「漁業」「観光」この3つのテーマがバラバラにならないよう、うまくつなぎ合わせながら物事を進めていく工夫がとても重要になってくる



テーマ② 漁業復興のポイント | ゲスト: 中野圭さん (岩手県大船渡市)

○岩手県大船渡市の漁村・越喜来崎浜で生まれ、田舎が嫌で高校から東京へ。そのまま都会で生きていくと思っていたが、2011年の東日本大震災で故郷が流され傷ついた姿を見て、残りの人生この街のためにできることをやろうと決意し、Uターン。それくらい衝撃的で、自分を変えたのが東日本大震災だった。



○家業はホタテやワカメの養殖だったが、津波で船も資材も全部流され、とても漁業を再開できる状況ではなかった。しばらく復興支援のNPOの仕事をして、5年間かかって船が戻り、港もある程度回復して、養殖も再開できるようになり、今では漁師として生計を立てられるように。

○海の環境変化が大きすぎて、何が獲れ、育つかベテラン漁師もお手あげ状態の中、遊漁船や海を活用した遊びや漁業体験など観光に近い産業（＝海業）に切り替えていくことに漁業者の生きる道があるのではないかと模索をしているところ。全然まだまだだが、行政の補助金は増えてきており、県や市としてもどこかをモデル漁港として整備しようとしているので、崎浜も手を上げている状態で、地域おこし協力隊の力も借りて、仕組みづくりをしているところ。

○漁業者にとっては、仕事が客商売に変わるということになるので、簡単に受け入れられるものではない。漁師の苦手な部分であり、やりたがらない人もいる。少しずつ実績を作って、ちゃんと稼げることを示せれば広がっていくのかなと思う。